

2020年4月19日  
東京聖三教会

イエスが来て真ん中に立ち、言われた



*Peace be to you!*

日本聖公会東京教区  
東京聖三一教会

2020年4月19日  
東京聖三教会

創世記 8:6-16、9:8-16  
使徒書 2:14、22-32  
ヨハネ 20:19-31

## イエスが来て真ん中に立ち、言われた

司祭 シモン 林永寅

最近、コロナウイルスの拡散により、わたしたちの日常生活に多くの変化が現れています。その中で最も目立った変化といえば自宅で過ごす時間が多くなったことでしょうか。そしてもう一つ目に見えない重要な変化もあります。それは、わたし自身も知らないうちに心に不安と恐れが生まれているということです。けれどもこういうことはわたしたちだけではありません。今日ご一緒に読んだ福音書からもそのような不安と恐れを読み取ることができます。

弟子たちは、イエス様がそれ程まで無力に亡くなってしまうとは思いませんでした。イエス様が捕えられた時、皆その現場から逃げてしまいました。しかし一週間後、弟子たちはある家に集まります。今後どのような状況が彼らに迫ってくるかわかりませんでしたし、もしかしたらユダヤ人が尋ねてきて逮捕されてしまうかもしれません。みんな不安であり、恐ろしかったのです。ですから戸に鍵をかけていました。

けれどもその後(実際)どうなったのでしょうか? このような不安に怯えている弟子たちの前にイエス様が現れたのです。このような場面を読んで、理性的な方は、「戸に鍵をかけていたのに、どうやって部屋の中

に入ることができるのか」と質問されるかもしれません。想像力が豊かな方は、時間と空間を行き来する「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のようなエスエフ映画を想像するかもしれません。しかしこれは、イエス様はどんな障害物があったとしても、それを乗り越えて弟子たちのそばに近寄っていらっしゃるということを教えてくれる象徴的な出来事です。

わたしたちが目すべきことは、「イエスが来て真ん中に立ち」という福音書のみ言葉です。イエス様は戸に鍵がかけられているにもかかわらず部屋の中にお入りになり、弟子たちの真ん中にお立ちになりました。これは、わたしたちの心の真ん中におさめられることを願っておられるイエス様の心を意味するものです。その時イエス様は弟子たちに平和を与えてくださいました。これは、不安と恐れを乗り越えて、この世を堂々と生きられる力と勇気をお与えになるためなのです。

多くの人々は限られた空間で長時間過ごせば、自由が制約され不便なのはもちろん、不安や恐れさえ感じるようになります。このような不安と恐れは人々を萎縮させて、時には判断力を失わせます。今日、わたしたちが経験している状況も当時の弟子たちと似ている面があります。わたしたちは未曾有の出来事に会い、どうしたらいいか戸惑っています。しかし、安心しても良いのです。イエス様がしっかりと閉ざされている戸さえも乗り越えて弟子たちに近付いたように、不安と恐ろしさを感じながら暮しているわたしたちにも近付いていらっしゃるからです。重要なことは、わたしたちに近付いていらっしゃる神様に会うためのわたしたちの努力です。

わたしは若い頃、韓国の独裁政権に抵抗するデモをして逮捕されました。そして一坪余りの狭い監獄のなかに独りで一年を過ごさなければなりません。当時わたしは監獄に入った途端に2ヶ月間、面会

禁止、読書禁止、運動禁止という過酷な懲罰を受けました。他の人と話すこともできませんでした。ただ許されているのは聖書でした。それがわたしにとって恵みになりました。聖書を最初から最後まで全部読むことができるきっかけとなったのです。そして、その時信仰について確信を持つに至りました。神様を深く感じるようになったのです。

コロナウイルスの状況は多くの苦しみを与えています。多くの人が命を失い、病に苦しんでいます。そして仕事を失った人たちも多いです。多くの人は活動が制約されています。けれどもこのように孤立し、不安になり、恐ろしいこの状況も、もしかしたらわたしたちにとって恵みの時間になるかも知れません。恐れ、不安、孤独の時間は、どんな時よりも神様と出会う良い機会になりえるからです。慌ただしく、せわしく仕事をする時間には、神様に深く出会うことが難しいのです。ですからこのような状況を恵みの機会にしていましましょう。きっと神様も皆さんの努力にお答えになり、恵みをもって報いでくださるでしょう。

今日の福音書に出てくるトマスの言葉は、わたしたちに多くのことを教えてくれます。彼はイエス様のご復活を信じるできませんでした。それで、「イエス様が復活なさった」という他の弟子たちの話に、「ちゃんと目で見て、手で確認をしなければ信じられない」と言いました。しかし、イエス様は彼の目の前に現われ、彼の疑いが不要であることをあきらかになさいました。その時のように、今も、イエス様は揺らぎやすいわたしたちの心の真ん中にお立ちになることを望んでおられます。わたしたちに必要なのは、その時イエス様がトマスにおっしゃった通り、実際に見なくても信じる心です。

今日ご一緒に読んだ旧約聖書には、ノアについての物語が記されています。ノアは、洪水になった40日と、地面の水が乾くまでの150日間、

孤立した空間である箱舟で過ごさなければなりません。その時、ノアはどんな気持ちだったのでしょうか？もしかしたら、自宅で自粛しているわたしたちと同じ心情であったのかもしれませんが。いや、もしかしたらもっと大きな不安と恐れを感じていたのかもしれませんが。ノアは神様のみ言葉に従って箱舟を作り、そこに入りました。しかし、大雨の降り注ぐ40日の間箱舟の中で過ごすのはとても大変なことでしょう。箱舟が揺れるたびごとに死ぬかも知れないという恐怖を感じたかもしれません。地面の水が乾くまで待っていた150日ももやもやした不安の中にいたかもしれません。本当に神様が約束なさった新しい人生が開かれるのかという疑問もあったでしょう。しかし、わたしたちはその後どのようなことが起こったのかよく知っています。神様は虹をお見せになり、新しい人生を開いてくださいました。そして、ノアは新しい人生を生きることができました。

これを通して私たちは確信することができます。いつか今わたしたちが経験しているコロナウイルスは終息するでしょう。そしてこのような状況が終わった後、神様がノアに虹をお見せになり、新しい人生を与えてくださったように、わたしたちにも新しい人生の始まりの機会を与えてくださるでしょう。

今日ご一緒に読んだ使徒言行録のみ言葉は、このように勇気を与えてくれています。

「あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、あなたの聖なる者を朽ち果てるままにしておかれない。あなたは、命に至る道をわたしに示し、御前にいるわたしを喜びで満たしてください。」(使徒 2:26-27)

では、このような告白がどのようにしてできたのでしょうか？当時の弟子たちは恐ろしさの中にもお互いに励まし合い、勇気づけ合っていた

たのでしょ。イエス様と共に生きる人生についても、思い直すこともあったでしょ。聖書も新たに読むことができたでしょ。教会は嬉しいことだけを分かち合うのではなく、危機にあっても互いに迎え入れ、対応していく共同体であるということも理解できたでしょ。そして、そのようなことのすべてが彼らにとって大きな力となり、信仰になったでしょ。そして弟子たちはその後エルサレムの神殿に行って堂々と福音を宣べ伝えることができたでしょ。救いと恵みは、苦しみと恐れを避けるところにあらわれるものではなく、苦しみと恐れを乗り越えようとする時こそ現れるものです。

教会に集まって、主日の礼拝をともに捧げることができないという現実は何によっても表現できないほどもどかしいことです。しかし、わたしたちは信仰者であるから、見なくても神様に会うことができますし、ともに集まらなくても信徒たちがお互いにつながっていることを信じていることができます。わたしたちには、壁を越えて、時間と空間を越えていらっしゃるイエス様がおられます。またお祈りを通してお互いがつながることができるということも信じています。遠からず神様は、わたしたちが喜びの心をもって礼拝を捧げることができるように導いてくださるでしょ。ですから皆が堅固な信仰をもって今日の試練をともに乗り越えていきましょう。また、この困難な状況が解消されたら、過去よりも堂々と世の中に向かい福音を宣べ伝えようという意志をも新たにしましょう。そうすれば、必ず神様はわたしたちに祝福を与えてくださり、恵みを与えてくださるでしょ。

この1週、時間と空間を越えて私たちに近寄り、平和を与えてくださるイエス様の恵みが、皆様と皆様の家庭に豊かに溢れますようにお祈りいたします。